

休耕田を利用した地産エネルギーを 用いるコミュニティバスの運行

代表：Q11084 中野和貴

副代表：Q11088 西嶋 弘明

プランの概要

- 本学周辺の地域は、高齢化が進む閑静な住宅地です。周辺は急な坂道が多く、高齢者の外出を抑制する要因となっています。地元住民から**コミュニティバス**の要望が関係機関に頻繁に提出されています。
- コミュニティバスのような公共交通の整備は、大学と地域が抱える共通の課題であり、これまで大学と地域が一体となってバス運行の実現のために取り組んできました。
- このような折、地域から**休耕田や休耕地**の無料貸与、活用の依頼が大学に寄せられました。そこで、**バイオ燃料作物**を休耕田や休耕地で栽培し、コミュニティバスの燃料として生成されたバイオエタノールを利用することで、より強力な環境対策・地域貢献が可能な方法を考案しました。

新規性・独創性

- 本プランでは、コミュニティバスの燃料を地域で生産したバイオエタノールを使用し、燃料費の大幅な削減と、地産エネルギーを地域で消費するという**エネルギーの「地産地消」**を実現したいと考えています。
- **地産エネルギーを利用したコミュニティバスは、休耕田の有効活用、新しいエネルギー供給元の確保、環境に優しく地球環境問題に貢献でき、地産エネルギー生産のための新しい雇用の創出、高齢者や身体に障害を持つ者などにとっての有用な交通手段の確保になると考えています。**

市場性

Where

市場性

Who

Needs

収支予測

第一期 収支予測

バス事業

20,000円（運賃収入）×250日－21,000円（バス人件費/日）×250日＋100万円（病院から）＋250万円（広告費:大学から）－100万円（バスラッピング原価）＝
2,250,000円

スイートソルガム事業

スイートソルガム種子10,000円＋農耕具・作業着
40,000円＋バイオエタノール生成量200,000円＋人件費
200,000円＋雑費50,000円＝500,000円（支出合計）

総利益

バス事業2,250,000円－スイートソルガム事業500,000円
＝1,750,000円

スイートソルガム



コミュニティバス運行

地域規模

耕作放棄農地の有効利用

高齢化問題

地産地消エネルギーによる
コミュニティバス運行

日本規模

地域・学生の
利便性

新たな雇用の創出

地球温暖化問題の
解決

ご清聴ありがとうございました。

